

【1】確かな学力の定着と向上

- 「分かる」「できる」「楽しい」つまり「学びがい」のある授業を実践する。
- 校内研究を中心に「主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を行う。学びに向かう力や思考力・判断力・表現力を育てる。」
- 反復学習を行い学習内容の定着を図る（放課後学習の充実）
- 日常的な取組
  - ・「墨田区学習状況調査の結果」「授業改善プラン」の活用
  - ・研修（プログラミング学習など）OJT（11回以上）授業観察（2回以上）の充実
  - ・学習したことを振り返り、ノートに自分の考えを記述する習慣化
  - ・自学の習慣化（朝学習・家庭学習・読書の習慣化）を図る工夫
  - ・書くことの習慣化（校長講話・俳句づくり・読書感想文など）
  - ・「小梅学習スタンダード7」の共通理解・定着

【2】豊かな心を育成する

- いじめや偏見、差別をなくそうとする意識と態度の育成（いじめ・不登校への対策強化）
  - ・東京都人権教育プログラムの熟知と教職員の人権意識の向上
  - ・「いじめ防止教育プログラム」「小梅小いじめ防止基本方針」をもとに、集団ルールの遵守、いじめは絶対に許さない指導の徹底
  - ・教育心理検査（アイチェック）・いじめアンケートを活用した、いじめ等の未然防止、早期発見・早期対応
  - ・特別支援コーディネーターを中心に、SC・特別支援教室の巡回教員と専門員と心理士との連携をとり、特別支援教育の充実を図る
- 児童の自尊感情や自己肯定感、規範意識を醸成する
  - ・自己肯定感をもち、自信をつける指導の重視
  - ・たて割り班活動の充実
- 道徳教育の充実
  - ・「考える道徳」「議論する道徳」の授業実践
  - ・カリキュラム・マネジメントの実現 ・評価の研修

【3】体を鍛え健康に生活する力を培う

- 日常的な取組
  - ・体力調査における児童の実態の把握（弱点：握力）
  - ・「体力向上タイム」「1学級1取組」等を通して、運動量確保のための計画的実施 **体を動かす習慣化**
  - ・基本的な生活習慣の確立「健康貯金カード」（早寝早起き朝ご飯）
  - ・「食に関する指導」「健康教育」の充実 **よい生活の習慣化**
  - ・「自分の命は自分で守る」意識の徹底と防災教育「学校へ泊まろう」の実施
  - ・未然防止のための「一声指導」は、朝の会・帰りの会で随時行う
  - ・「自分を大切に 友達を大切に」SOS教育の充実

【ビジョン】《めざす学校像》

小梅小学校に関わる人にとって「魅力ある学校」を創造する

- ◇ 子供が、 **自分の成長を感じる学校**
- ◇ 教職員が、 **学び続ける学校**
- ◇ 保護者が、 **安心・安全に思い通わせたくなる学校**
- ◇ 地域が、 **誇りに思える学校**

《学校教育目標：めざす児童像》

思いやりのある子  
深く考える子  
たくましい子

【経営指針】校長の思い

- ◎目指すは「社会に開かれた教育課程」の実現  
よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
- ◎社会背景・要請、伝統と期待と共に、各保護者の教育観・各個人のもつ課題の多様化を受けとめ、意見や感想を聞きながら修正を繰り返し「納得解」を得ながら創る考え方（マネジメント）を重視する
- ◎「よい習慣（生活・学習・運動）を身に付けさせること」を重視するとともに、児童・保護者・地域の夢や願いを叶え、ともに成長していく場を創るために、**使命（ミッション）に従った行動をとり、情熱（パッション）と対話・交流（コミュニケーション）を大切にしながら学校経営に邁進する**

【4】オリンピック・パラリンピック教育の推進

- オリンピック・パラリンピックの歴史や意義等の学習、本物との出会いから、スポーツの楽しさや努力の姿勢、おもてなし精神の育成や障害者理解の充実
  - ・「学ぶ」「観る」「する（体験・交流）」「支える」のアクションを取り入れた授業を年間35時間計画的に実施。
  - ・おもてなしの作法  
挨拶、礼、ノック、職員室への入り方（日本語・英語）の定着
  - ・自分で立てた目標克服のために「体力をつけ、頑張れる心をバランスよく育てていく

〈1〉組織力を生かす

- 全員体制で取り組む  
「4つのⓄ」（挨拶・集まり・後片付け・安全）の徹底：あらゆる機会に！  
**特に重点課題は「挨拶」**
- 「よい生活の習慣化」をめざし同一歩調で徹底
- 同僚性の重視・チーム学年 チーム専科の重視  
疑問なこと、困ったことが生じたとき、支援が欲しいとき等、躊躇せずヘルプの声を出す又それに気付く。インフォーマルな場の重視
- 憧れを見つけ10年後の自分を考える  
自分の持ち味に気付き、自分の指導の核となる力を身につける。
- 評価を生かす  
PDCAに基づき短いスパンでの分掌ごとの評価&学校評価（前・後期）、児童アンケート（アチェック）を行い、改善につなげる

〈2〉地域に貢献すべき学校・教職員であることの自覚

- 学校運営連絡協議会の意見を生かす
- 学校教育の可視化を重視【可視領域で本質を判断される】
  - ・保護者会、学校公開、学校行事等で意図や良さや思いを伝える
  - ・各種便り、HP、正門の掲示板等による積極的な情報発信の工夫
  - ・努力を認め讃える場の設定と、校長講話の掲示のさらなる充実
- 「おもてなし」の気持ちが表れる対応をする
  - ・来校者、保護者への挨拶は、率先して元気3倍で行う
  - ・丁寧な電話対応、用件の確実な伝達
- 地域の歴史・文化・人材等の教材化を図る
- 地域・保護者と時間や感情を共有する  
地域等行事・スポーツイベント・おやじの会行事等に積極的な参加で、たく強い「つながり」を築くことを重視＝「共感・仲間」

〈3〉サービスに対する厳正な態度

- ◎サービス事故防止
  - ・公教育に携わる者としての自覚（サービス事故の代償の大きさを理解）
  - ・体罰・不適切な指導の根絶（プロの教育者としての冷静さ）
  - ・個人情報の管理の徹底（記録簿・テスト等の持ち出し・放置厳禁）
  - ・法令を遵守する公務員としての自覚をもつ
  - ※整理整頓ができないのは甘えである：1日3回10秒整理から
  - ※互いに、注意できる関係を築く
  - ※「自分は事故を起こさない！」という過信・「これくらいなら大丈夫！」という安易な認識は、危険である
- 事故発生時には、ためらうことなく、即時報告！**

〈4〉働き方改革（できること、身近なことから校務改善）

- ・ライフ・ワークバランスの実現に向けた意識改革
- ・学校経営支援部の充実 ・学年専科主任の時間コントロール
- ・教員の勤務時間週60時間以内（週ごとの時間把握）